

あなたの大切な家族にマイクロチップを

マイクロチップとは

- マイクロチップは、直径2mm、長さ8～12mm程度の円筒形の電子標識器具で、内部はIC、コンデンサ、電極コイルからなり、外側は生体適合ガラスで覆われています。



実寸大の
マイクロチップ

- それぞれのチップには、世界で唯一の15桁の数字(番号)が記録されており、この番号を専用のリーダー(読取器)で読み取ることができます。
- 動物の安全で確実な個体識別(身元証明)の方法として、ヨーロッパやアメリカをはじめ、世界中で広く使用されています。
- わが国でも、近年犬やねこなどのペットを中心として利用者が急増しています。



主な特徴

- 一度体内に埋込むと、脱落したり、消失することはほとんどなく、データが書きかえられることもないため、確実な身元証明になります。
- リーダーから発信される電波を利用して、データ電波を発信するため、電池が不要で、半永久的に使用できます。
- 過度な痛みや負担を与えないので、ほ乳類、鳥類、は虫類(カメ、ヘビなど)、両生類(カエルなど)、魚類など、ほとんどの動物に使用できます。
- これまで故障や外部からの衝撃による破損の報告はありません。



マイクロチップのメリット

- 迷子や地震などの災害、盗難や事故などによって、飼い主と離ればなれになっても、マイクロチップの番号をリーダーで読み取り、データベースに登録されている飼い主の情報と照合することで、飼い主のもとに戻ってくる可能性が高くなります。

※リーダーは、全国の動物保護センターや保健所、動物病院などに配備されています。



埋込みの方法

- 通常の注射針より少し太い専用のインジェクター(チップ注入器)を使って体内に注入します。正常な状態であれば、体内で移動することはほとんどありません。
- 痛みは普通の注射と同じくらいといわれており、鎮静剤や麻酔薬などは通常は必要ありません。
- 埋込場所は、動物の種類によって異なりますが、犬やねこの場合では、背側頸部(首の後ろ)皮下が一般的です。
- 犬は生後2週齢、ねこは生後4週齢頃から埋込みができるといわれています。
- 費用は、動物の種類や動物病院によって異なりますが、犬やねこの場合では、数千円程度です。
- マイクロチップの埋込みは、獣医療行為にあたるため、必ず獣医師が行います。詳しくは、お近くの動物病院にご相談ください。



資料提供元：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

〈 お問い合わせ先 〉

(公社)栃木県獣医師会 TEL:028-622-7793

または、お近くの動物病院まで